

# *FD Newsletter*

第 12 号 (2024 年 3 月)

発行：長崎純心大学 FD 委員会

〒852-8558 長崎市三ツ山町 235 番地

TEL 095-846-0084 / FAX 095-840-0470

## 目 次

教育改善の歩み 2023	2
F D 研修会報告	12
S D 研修会報告	13
F D 委員会活動報告	14

## 教育改善の歩み 2023

### 教育に関する問題点と組織的改善

#### 文化コミュニケーション学科

改善内容	これまでの経緯
<p>本学科の歴史と教育・研究実績、本学科教員の専門性等を考慮し、学科の特性をより明確に表現するために検討を重ねた結果、「言語」「文化」「情報」の言葉が本学科の名称として相応しいのではないかとの合意を得た。その結果、2024年度入学生より学科名称を「言語文化情報学科」とすることとなった。</p> <p>学科名称変更に合わせて、学生の負担軽減を図るためにカリキュラムを積極的に見直してスリム化し、学びの系統性を高めた。また、4つの主専攻「英語コミュニケーション専攻」「日本文化専攻」「世界の文化と長崎学専攻」「情報専攻」と、5つの資格専攻「国語科教職専攻」「英語科教職専攻」「日本語教員専攻」「司書専攻」「学芸員専攻」を設定し、9つの専攻から2～3の専攻を組み合わせ履修できるカリキュラムとした。ただし、国語科教職専攻と英語科教職専攻は同時に履修できない等の専攻の組み合わせには条件がある。</p>	<p>人文学部長より、2024年度から「地域包括支援学科」の名称を「福祉・心理学科」に変更することを決定しており、「文化コミュニケーション学科」も学生募集の観点から学科名称の変更を検討するよう要請があった。</p>
<p>2024年度から始まる「言語文化情報学科」のカリキュラムに対応した内容で「上級情報処理士」および「情報処理士」のカリキュラムを構成し、全国大学実務教育協会に課程申請を行った。</p> <p>※2023年3月に許可される予定。</p>	<p>2018年度に比較文化学科と英語情報学科と統合して文化コミュニケーション学科がスタートした。その際のカリキュラムに基づいて、「上級情報処理士」および「情報処理士」の課程カリキュラムを作成し運用してきた。2024年度から始まる「言語文化情報学科」のカリキュラムが開始されるため、それに合わせて資格課程の変更が必要となる。</p>

<p>基幹科目について、「学科共通科目」と4つの主専攻の科目を次のように分野に分けた。</p> <p>《学科共通科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教養</li> <li>・文献講読</li> <li>・学術研究</li> </ul> <p>《英語コミュニケーション専攻》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合英語</li> <li>・特定の目的のための英語</li> <li>・アカデミック英語</li> <li>・異文化理解・英語学・英文学</li> </ul> <p>《日本文化専攻》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本古典文学</li> <li>・日本近現代文学</li> <li>・日本の言語・文化</li> </ul> <p>《世界の文化と長崎学専攻》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の言語</li> <li>・世界の文化</li> <li>・長崎学</li> </ul> <p>《情報専攻》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理理論</li> <li>・ビジネス実務</li> <li>・マルチメディア演習</li> <li>・Web デザイン・プログラミング</li> <li>・AI・データサイエンス</li> </ul>	<p>4つの専攻「英語コミュニケーション専攻」「日本文化専攻」「世界の文化と長崎学専攻」「情報コミュニケーション専攻」のカリキュラムにおいて、各科目との関連性が十分に明示されていなかった。</p>
<p>2024年度から始まる「登録日本語教師」の制度に対応した内容で「日本語教員養成課程」のカリキュラムを構成し、「必須の教育内容50項目に対応した日本語教員養成課程等としての確認を受けるための申請書」および「平成12年報告に対応した日本語教員養成課程等としての確認を受けるための申請書」を文化庁へ提出した。</p>	<p>文化庁による新制度が日本語教師養成について「必須の教育内容50項目」を示しており、これを網羅するカリキュラムが求められている。2024年度から始まる「言語文化情報学科」の新しいカリキュラムとその特性を活かして「日本語教員養成課程」のカリキュラムを変更する。</p>
<p>「S526」教室をゼミで使用し易い環境に整えた。</p> <p>「L303」教室の10台のPCの内、Windows 8.1が搭載されていた4台の古いPCを新しいものに交換した。他のPCについてもハードディスクをSSDに換装することやメモリーを増設することによって、円滑な作業ができるようになった。</p>	<p>卒業研究・卒業論文のための指導(ゼミ指導)を行うための教室に不自由さがあった。特に、英語情報学科時代に構築し、現在もゼミで利用している「L303」教室には10台のPCを設置しているが、それぞれ古くなり、円滑な作業ができなくなっていた。</p>

地域包括支援学科

改善内容	これまでの経緯
<p>説明会を12月上旬に実施し、ゼミの活動内容について文面で紹介するとともに、12月～1月にかけて学生が興味のあるゼミの担当教員を訪問し説明を受ける方式に変更をした。</p>	<p>3年次からの専攻演習の配属に関して、これまでは前年度1月に説明会を実施していた。しかし、時間が限られており各ゼミの活動について十分な説明を行えていない状況があった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のキャリア選択の意識を高めるために前期のオリエンテーションを4月の始講前に対面で行った。</li> <li>・地域包括支援学科には心理と福祉を専門的な学びたい学生がいるため、キャリア委員がそれぞれのコースで学年ごとの準備等について説明した。さらに、具体的な理解のために、就職が決定した4年生や卒業生を招いて講話をしてもらった。講話は自己のキャリア選択のための動機づけや参考になったようである。</li> </ul>	<p>これまでキャリアオリエンテーションは前期（3月後半）、後期（9月後半）に実施していた。また、コロナのためにオンラインでの実施であった。</p>
<p>大学での学びについて、セルフケア、合理的配慮に関する講義を追加し、初年次教育としての内容を充実させた。</p>	<p>学科必修科目である地域包括支援論Aについて、初年次教育としての内容が不足している状況があった。</p>

こども教育保育学科

改善内容	これまでの経緯
<p>「小学校教育実習再申請」のための条件や手続き等の規程を新たに定めた。</p>	<p>これまでに、GPA足切りにより、小学校の免許取得が出来ない学生が、年間数名いた。そのことにより、保護者からの問合せ等があったり、通信教育で免許を取得しようとする学生がいたりした。それらの学生の中で、小学校免許取得に意欲がある学生に、学びの復活が出来る制度を作れないかと模索していた。</p>
<p>学生相互の情報交換会を本年度2回持った。その結果、活動の幅を広げたり、モチベーションを高めたりする、高い効果が見られた。</p>	<p>学生が、小学校へボランティア活動に行く「児童支援活動」では、学生が個人で活動するために、活動がパターン化されたり、モチベーションを保つのが難しかったりすることがあった。</p>
<p>小学校科目と幼稚園保育所の科目に分けた。 基礎音楽 →小学校音楽・こどもと表現(音楽) 基礎造形 →小学校図工・こどもと表現(造形)</p>	<p>幼稚園・保育所と小学校では学びの内容や年齢層が違うが、小学校・幼稚園・保育所の免許資格のための必修演習科目を、同じ科目で設定していた。そのため、1科目の中で、0歳児から</p>

からだ育ての基礎 →小学校体育・こどもと表現(体育)	12歳までの幅広い学びの内容を1科目で学んでいた。
-------------------------------	---------------------------

#### 入試委員会

改善内容	これまでの経緯
学生広報サークル Junshin Join Us を立ち上げ、学生が恒常的に大学の広報に関わることが出来るようになった。	オープンキャンパス等において、その都度、学生を募集していたが、中には主体的に継続して参加する学生が少なからずおり、これを組織化し教室外での学びと活動の活性化が期待されていた。

#### 学生委員会

改善内容	これまでの経緯
入試広報課と協力し、オープンキャンパス時に学生会ブースを設定した。高校生に対して「ホームメイド」を配布すると共に、学生会やサークルの活動について広報する場を設けることによって、本学の魅力を高校生に伝えることが出来るようになった。	学生会が発行する「ホームメイド」は、学生会やサークルの活動を新入生に伝えるための雑誌である。これまでは、フレッシュマンフェスタ時に新入生に配布するのみであった。また、学生会やサークル関係の情報を高校生に伝える手段はウェブサイトのみであった。

#### キャリア委員会

改善内容	これまでの経緯
<b>オープンキャンパスにおけるキャリア支援に関する説明会の実施</b> 資格取得や就職実績等、本学のキャリア支援について高校生及びその保護者に説明を行う機会を設けた。 入口（入試・入学）から出口（就職）まで一貫性・体系性を持った教育や就職支援の具体的な状況について周知できた点は意義があった。	これまで高校生向けのオープンキャンパスにおいては、キャリア支援に関する情報提供・説明は実施していなかった。しかし、受験生である高校生とその保護者の就職等に関する問い合わせがある中で、本学での4年間の学びがどのように就職、学生の自己実現に結びつくかを資格取得、就職実績をもとに説明することが、本学の教育力を示すことに繋がると考え実施することとした。
<b>キャリア・サポートガイドの電子化</b> 学生の活用頻度を高め、就職状況の変化に対応するためにキャリア・サポートガイドを電子化する作業を行い、次年度から運用できるように準備を行った。	現在までは、紙媒体でキャリア・サポートガイドを発行し、学生に配布を行っていたが、学生の活用頻度が低い現状があった。また、コロナ禍からの就職活動の変化等があり、内容等も変更する必要があった。

カトリック委員会

改善内容	これまでの経緯
<p>カトリック学生の会はここ3年間、積極的な参加をしていなかった純心祭での活動を行うことにし、売り上げを来年度の活動費に充てることを目的にバナナケーキを作った。準備や販売も自発的に参加できるようにし、活動を増やしたことで部員数が増えたため、学校のカトリック行事を執り行う学生の増加になった。</p> <p>また26聖人巡礼は、昨年小規模で復活したが、今年度は部員以外の学生にも参加を呼び掛け、実施した。</p>	<p>カトリック学生の会と連携して大学のカトリック関連行事に関わっている。今年度は4年ぶりに鹿児島純心大学との交流会を行う予定だったが、大雨のため中止されたが、3年ぶりに小規模ではあったが26聖人巡礼を行うことができた。</p> <p>それでもまだコロナ感染症拡大以前の活動を知る学生がいないこともあり、活動に対する積極性が足りないくらいがあった。</p>

図書委員会

改善内容	これまでの経緯
<p>『大学生になるみなさんへ』の更新に対応して、図書館未所蔵の図書の追加購入を行った。</p>	<p>2022年度より入学前教育用教材の『大学生になるみなさんへ』に掲載している「お薦めの新書」の展示を新入生向けに4月に行った。</p>
<p>2022年度前期の子ども教育保育学科の「造形の授業」で学生が製作した作品の展示を図書館入り口のギャラリーにオープンキャンパスで見学に来る高校生に向けての展示を行った。</p>	<p>前年度は学生の作品などを展示する場所として、図書館の入り口をギャラリーとして活用していた。</p>
<p>2023年度に新規契約したデータベースELNETを含む各種データベースの講習会を教職員向けに実施した。</p>	<p>5年程前に教職員向けの新聞データベース講習会を実施した。</p>
<p>今年度も引き続き、図書館利用者アンケートの結果を踏まえて「図書館にあまり行かない」と回答した学生にも届くように様々な展示やイベントを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示37回、イベント5回</li> <li>・司書課程学生が作成したブックリストやポップの展示4回</li> </ul>	<p>図書館に来ない学生たちに図書館に関心を持ってもらうために図書館の蔵書を活用した様々な展示やイベントを多数計画した。また参加型のクイズなども企画・実施した。</p>
<p>電子書籍の利用促進のため試読サービスを導入した。期間は9月下旬から11月中旬まで、図書館の電子書籍のWebページから未購入の電子書籍を5分間閲覧でき、そのページから図書館にリクエストできるサービス。</p> <p>電子書籍アクセス数 184回 (12月まで)</p>	<p>2022年度に電子書籍を図書館に導入したが、あまり活用されていない状況であった。</p> <p>2022年度 電子書籍アクセス数 164回</p>
<p>図書館資料を使って作成した「保育原理」のレ</p>	<p>造形の授業で制作した作品などを入口に展示</p>

ポートを図書館内に展示した。あわせてレポート作成の参考文献として使われた図書の展示も行った。	し、学習成果の発表の場としても活用してもらえよう先生方に働きかけをしてきた。
リポジトリに新たなコンテンツとして大学院紀要「人間文化研究」を登録した。著作権者の許可が取れる限り過去に出版された巻の登録も行った。	大学院での研究成果物のリポジトリ掲載は博士論文のみであった。
毎年、除籍基準に照らして不要となった雑誌や役割を終えた蔵書がある。純心祭において、図書館内でリサイクル本として希望する来館者に持ち帰ってもらった。	初めての試みであった。

#### 健康管理委員会

改善内容	これまでの経緯
C棟1階に保健室別室を設置予定である。	体調不良者は保健室へ搬送するが、搬送距離が長い場合のような場合困難であった。 ①緊急にベッド臥床を必要とする時 ②坂道の搬送 ③雨、雪時の搬送 ④搬送に係る職員数の確保ができない
学生寮に近い内科医療機関リスト（診療時間、休診日等の情報を添付したもの）を作成し、活用してもらった。	学生寮には他県出身者もいるため、体調不良時の病院選定の支援が必要と考えられた。
2023年4月より学年暦に定められた土曜日（補講日）に保健室を開室した。	保健室開室は平日月曜日から金曜日だが、補講日に登校する学生が多いため、保健室開設の要請があった。
クラスアドバイザーや学生相談室と情報共有しながら学生を支援している。また、保健センター内の廊下を仕切り、居場所や面談室として利用できるようにした。	学生がメンタル面の理由で教室に入れず、保健室登校する学生が複数いた。
日頃より学生相談室と情報共有を密に行う事を心がけ、必要に応じ保健室、学生相談室でケースカンファレンスを行い支援方法等の確認を行った。	メンタル面で課題を抱える学生が保健室、学生相談室の双方を利用していたため、情報共有や支援方法の統一等が必要となった。

教学企画室

改善内容	これまでの経緯
<p>科目ナンバリングについての素案について会議で検討し、素案をより良い案にするような提案を行った。</p>	<p>新しい取り組みである。</p>
<p>入学前教育に関する改善として、昨年度使用した入学前教育のための配布冊子について以下のような改善を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生にこちらの意図が伝わりにくい又は誤解を招く表現を改めた。</li> <li>・多量過ぎて使われないブックリストを削除した。</li> </ul>	<p>入学前教育のため入学予定者に対して冊子を配布していた。</p>

実習・インターンシップ支援（教職関係）小学校

改善内容	これまでの経緯
<p>指導担当の方法を見直した。教員を班に固定せず、専門の教科の模擬授業時だけ班を受け持つ方法に変更し、より深い指導が行えるようになった。</p>	<p>「小学校教育実習指導」の班と指導教員の固定化により、指導教員の専門でない教科も指導しなければならなかった。</p>
<p>オリエンテーションの講義は従来どおり一名の教員（地域包括支援学科）に実施いただき、車いす操作等介護技術の講師は、地域包括ケアコース卒業生に依頼することができた。学生を3グループに分け、少人数のグループで実施することができた。</p>	<p>介護等体験の指導を一名の教員（地域包括支援学科）にお願いしていたが、受講生の増加により、負担が大きかった。</p>
<p>講師を、拠点校初任者指導教員に依頼することによって、教員として勤務することのイメージをつかませることができた。現在の初任者指導の実態や課題等を学生に把握させることができた。</p>	<p>「保育・教職実践演習」のまとめの講話の講師は、小学校校長に依頼していた。4月からすぐに役立つ知識を伝える必要を感じていた。</p>

実習・インターンシップ支援（教職関係）中・高

改善内容	これまでの経緯
<p>履修計画を見直し、履修時期を検討し、時期の変更と履修科目の再編を実施した。</p>	<p>教員採用試験受験者の増加により、中高の教職課程の履修内容や時期を見直す必要があった。</p>
<p>「中学校一種」履修者は「4年次9月の4週間」に教育実習期間を変更。</p> <p>「高等学校一種」履修者は、教育実習の期間を、「4年次5月の2週間」とする。なお、中・高免</p>	<p>教員採用試験の前倒し（6月中旬）に伴う学生の負担を軽減するため、教育実習の実施時期の変更が必要とされるほか、高等学校での教育実習生受け入れ不可の学校が増加し、実習校及び実習期</p>



許取得希望者は、原則として中学校での実習に限るとした。	間の決定が困難となっていた。
中高免許取得希望者の規定を、「2年次までの成績で A 以上 15 科目の成績評価を得ている者」から、「2年次終了時の総合 GPA2.00 以上、3年次終了時の総合 GPA2.50 以上の者。ただし、2年次終了時の総合 GPA2.00 未満の者が履修を継続する場合、「教育実習」の履修は3年次終了時における単年度 GPA が 2.80 以上の者とする」に変更した。	教員免許取得を希望する学生については、GPA 導入以前に定められた「2年次までの成績で A 以上 15 科目の成績評価を得ている者」基準を採用していた。GPA が導入され、小学校コースは GPA を基準とした規定を採用しているため、中高免許取得者の規定との相違が生じていた。

実習・インターンシップ支援（実習関係）【福祉・介護】

改善内容	これまでの経緯
ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ及び精神保健福祉援助実習において、富士ファイルの提供する「実習支援システム」（実習記録、実習期間と大学の連絡等のデジタル化、オンライン化等）を導入によりスムーズに実習指導が行える環境を整える準備を進めた。	長崎県内他大学での導入を踏まえて、学内で検討して導入することを決定した。

実習・インターンシップ支援（実習関係）【保育・施設】

改善内容	これまでの経緯
子どもの観察を細やかにできるよう課題として、子どものつぶやきを記録し、提出するようにしたことで、意識して子どもを観察できたことが伺えた。また、事後指導の実習の振り返りについては、数年実施していたグループでの取り組みについて、ある程度の評価はあったが、今年度は個人の発表に戻した。例年9回程度の授業回数であるが、1回の授業で3名の発表ということで授業回数が11回となった。回数が増えたことで、議論の在り方を検討する必要性も見えてきた。	保育実習Ⅱにおいて、もっと子どもの姿を観察できるよう課題を出した。また事後指導の振り返りを数年グループ発表という形式で行っていたが、数名の学生が授業評価アンケートに個人の発表がよいとの記述があり、今年度は個人の発表とした。 しかし、発表については今後も検討が必要である。
コロナは5類となったが、施設によってはまだ警戒しているところもあるため、健康観察記録、と抗原検査キットの配布は継続し実習初日の朝に検査をしたうえで実習に入るよう指導した。学生が自身の健康管理に配慮することを意識付けることにも繋がることを期待している。	今年度はコロナが5類となったが、実習においては1週間前から実習中、実習後の1週間の健康観察記録の実施、抗原検査キットの配布を継続した。 また、巡回訪問に代わる内容として、電話やオンライン、メールによる方法を取り入れた。
これまで少しずつ、保育実践室の環境を整えて	保育実践室の充実を図り、学生が保育環境を学

きたが、今年はさらに充実を図ることができた。授業での活用も増え、保育者としての実践力を身に付ける場となっている。	び、実習に向けて実践力を高める場となるようにした。
--	---------------------------

実習・インターンシップ支援（実習関係）【心理（学部）】

改善内容	これまでの経緯
後期オリエンテーション期間中に、大学院進学および心理実習に関する説明会を行った。また、1月に実施した心理実習オリエンテーションにおいて、これまで通りの実習内容の説明に加えて、実習授業の体験としてグループワークを追加した。	心理実習の内容について説明をする機会が不足しており、実習について具体的なイメージを持つことができないまま受講を決めている状況がみられていた。

学生相談室

改善内容	これまでの経緯
ミーティングや会議を通し、学生相談室のカウンセラー・事務担当・主事だけでなく、保健センター長・保健室等の関係者とのコミュニケーションが改善され、スムーズな連携がとれるようになった。	個別の学生支援のためだけでなく、入学早々不適応となる学生の増加への対応について学生相談室及び関係者とミーティングを重ね、その結果を学生相談室会議で検討し、次年度の新入生のメンタルチェックの実施方法及び事後措置の方法を変更した。

地域連携センター（産学官連携部門）

改善内容	これまでの経緯
本学における教育に関する外部からの協力を充実するため、国立諫早青少年自然の家と連携協定を締結した【年度末までに実施予定】。	新規の取り組みである。

地域連携センター（医療・福祉連携部門）

改善内容	これまでの経緯
「地域包括支援実習」において学生をSAとして起用し、実習期間中は有償で地域医療セミナーの実行委員をすること、使用する事例をこれまで作成したものをベースにすることで、ミーティングの時間も減少し、学生への負担が減った。実習中においてもSAの学生がファシリテーションを担うことによって、実習生が安心して取り組む	これまで「地域包括支援実習」の一部である地域医療セミナーの学生実行委員は有志によるボランティアでの運営であった。事例を作成するためにミーティングの開催などによる学びも大きくあったが、同時に学生への負担感もややあったようである。

<p>ことができたことに加え、SAを担った学生の運営・企画力やファシリテーション力、心理・福祉の知識が向上した。</p>	
<p>「地域包括支援実習報告会」の後に、本実習を受講したことがある卒業生を講師として招き、本実習を学ぶことの意義に関する講義を行った。</p> <p>高校生、学生（実習生）、卒業生が参加し、好評の意見が多く、新たな接点を創出する機会となった。</p>	<p>これまでの「地域包括支援実習報告会」は、実習生による発表のみの構成であった。</p>
<p>今年度の「南高愛隣会の利用者サービス評価調査」では他計式による構造化面接調査とコーディングを並行して行うことによって、面接調査において調査票にどのように記入をすると円滑にコーディングが実施できるのかという一連の流れを学生達は学ぶことができた。</p>	<p>これまでの「南高愛隣会による利用者サービス評価調査」では、他計式による構造化面接調査が全て実施終了した後に、コーディングを開始していたため、事前にトレーニングを受けて調査が実施されていたものの、徹底されていないところがあり、コーディングの際に回答の書き方を修正することに時間がかかっていた。</p>

## 2023（令和5）年度 教職員FD研修会報告

2024年3月8日（金）に「〈学修（学習）成果の可視化〉について考える」をテーマにFD研修会を開催しました。

午前の部では、FD委員会からの報告に続き、同委員会・坂本雅彦委員長から「《学修成果の可視化》という問題—そもそも“誰にとっての何が問題であるのか”を可視化する—」と題し、中央教育審議会答申等を時系列に紹介し、国の教育政策として今日の大学に要請されている「学修成果の可視化」について、本学における取り組みを①学生自身による学習成果の把握のため②学修成果の点検・評価を教育プログラム改善につなげるため（教学マネジメントのため）③本学における教育の成果の社会的公表のため の3点を中心に問題点（論点）が提起されました。



午後の部では代表者討議とし、松本人文学部長、吉原文化コミュニケーション学科長、足立地域包括支援学科長、石田前こども教育保育学科長、水畑教学企画室長、永友学事課長に登壇いただき、午前の部で坂本FD委員長から提起された問題点（論点）を基に各学科等の取り組みについて登壇者からの発題並びにフロアとの意見交換（質疑応答）を行いました。



研修会後に実施した事後アンケートでは、午前の部の問題提起のなかで『長崎純心大学』が『長崎純心大学』として存続し発展するためのカギを握る重要な問題』と紹介されたこともあり、数値化だけでは測ることができない、本学の特性を生かした学修（学習）成果の可視化が必要であるという意見が多く見られ、引き続き、学内での議論、検討の必要性を感じる結果となりました。

## 2023（令和5）年度 SD 研修会報告

本学では、「教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修」として毎年 SD 研修会を開催しています。

2023 年度は、8 月 23 日（水）と 9 月 6 日（水）の計 2 回、SD 研修会を開催し、それぞれ 96 名と 86 名の教職員が参加しました。

8 月 23 日（水）に開催した研修会では、まず、午前の部『『伝える』から『伝わる』～コミュニケーションと接遇～』と題し、フリーアナウンサーの東島真奈美氏を講師にお招きし、セミナーを実施しました。

セミナーでは発声、発音、言葉遣い、表情、対応の仕方等を実践を交えた参加型で行われ、教職員からは「興味深い内容で意義あるものとなった」や「これからの授業に活かしていきたい」等の声が聞かれました。

午後の部では、「第 4 期中期目標・中期計画のブラッシュアップ」と題し、分科会並びに全体会において分科会報告を実施しました。

2022 年度に開催した同研修会の事後アンケートにおいて、第 4 期中期目標・中期計画の見直し、修正が必要なのではないか、という意見が出されたことをうけ、今年度は項目ごとに意見を出し合い、修正等について検討を行う、という形式で行われました。

事後アンケートの結果を見ると、問題点や修正点を認識することができたという意見が出された反面、「十分な検討をするには時間が不足していた」「現状を認識するまでにとどまった」という指摘が散見され、引き続き“ブラッシュアップ”していくことの必要性を感じる結果となりました。



9 月 6 日（水）に開催した第 2 回 SD 研修会では、講師に本学園顧問弁護士の平山愛氏（青野・平山弁護士事務所）をお迎えし、「これってハラスメント？～職場のハラスメントの具体例～」と題するご講演をいただきました。

講演ではハラスメントの具体例や実際に他の学校法人等で起きた裁判例等を紹介いただきながら、ハラスメントの定義や日常業務における注意点等について詳しくご説明いただきました。

研修会終了後のアンケートでは参加者の 88%が理解できた<sup>1)</sup>と回答しており、ハラスメントに関する意識向上の足がかりになったのではないかと考えます。

1) 5 項目からの選択式（「よく理解できた」「理解できた」「どちらとも言えない」「あまり理解できなかった」「理解できなかった」）のうち、「よく理解できた」又は「理解できた」と回答した割合

## 自己点検評価／FD委員会 活動報告

2023 年度

### ■自己点検評価／FD委員会

第1回	2023年4月12日	第2回	2023年5月10日
第3回	2023年5月31日	第4回	2023年7月5日
第5回	2023年10月4日	第6回	2023年11月1日
第7回	2023年12月6日	第8回	2024年1月17日

### ■学生による授業アンケート

前期 2023年6月5日(月)～9月21日(木)

後期 2023年11月14日(月)～2024年2月22日(木)

### ■教職員による授業参観

通年で実施

### ■FD研修会

日時：2024年3月8日(木) 10:30～15:00

テーマ：〈学修(学習)成果の可視化〉について考える

### ■研究倫理・コンプライアンス研修会 ※オンデマンド形式

講師：松場 里弥 氏 (ロバスト・ジャパン株式会社)

期間：2023年11月30日～2024年3月8日

内容：研究をとりまく環境、研究活動におけるコンプライアンス、研究活動における不正行為および研究校正 ほか

### 図書・雑誌の案内

※教育開発推進室所蔵の図書や雑誌の貸出しを希望される方は、図書館で手続きを行ってください。

### ■定期購読雑誌等

「高等教育研究」日本高等教育学科会編 玉川大学出版部発行

「IDE 現代の高等教育」IDE 大学協会発行

### 編集後記

2023(令和5)年5月8日から新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」となり、多くの本学の教育・研究活動においても“本来の姿”が戻ってきました。

「教育改善のあゆみ 2023」にあるように、各委員会等がイベントを開催し、授業においても学外施設等での実習が元通りに近い形で実施、また、SD研修会では外部講師をお招きし、ワークショップ形式で実施できたことなど、コロナ禍の数年に比べるとより充実した取り組みが行えたのではないかと思います。

2024年度以降は再開できた各取り組み、行事等がより充実・発展し、学生の学修成果を最大限に高めることの一助となれば幸いです。

FD委員会